

学びのお手伝い

2025

市民学習講座

～講師派遣のご案内～



みなさまの「**学びたい!**」の力に。



生活の知恵や人生を豊かにする
教養、生活科学など数多くのテーマを
ご用意しました

東北文化学園大学

学びのお手伝い 市民学習講座

東北文化学園大学では、地域みなさまが
日頃行っている学習活動のお役に立ちたいと、
多様なテーマをもうけ、学習会などの講師を
お引き受けいたします。是非ご活用ください。

ご希望のテーマを
お選びください。



からだと健康を守る

→2~6ページへ

教養を磨く

→10・11ページへ

暮らしと安全を考える

→7~10ページへ

先進科学を知る

→12・13ページへ



申し込みの条件

学習活動の場所が仙台市内で、平日、参加人数が
おおむね10名以上より受け付けています。



講師

本学の教員が講師役として、
学習活動などのお手伝いをいたします。



場所と時間

みなさまの学習の場へ伺います。



費用

講演料はいただきません。
交通費として実費程度をご負担いただきます。



申し込み方法

裏面の「東北文化学園大学 市民学習講座申込書」に必要事項を記入し、講座開催希望日の2カ月前まで申
込書を下記宛てに郵送、FAXまたはメール添付にてお申し込みください。申込書到着後、希望する担当講師
のスケジュールを確認し、対応の可否について連絡いたします。

なお、希望する講師のスケジュールの都合上、ご希望に添えない場合がございますのでご了承くださいませよう
お願い申し上げます。

※申込用紙は以下URLからもダウンロードできます。

ワードファイル http://923.tbgu.ac.jp/file/facility/comm/shimin_01.doc

PDFファイル http://923.tbgu.ac.jp/file/facility/comm/shimin_01.pdf



東北文化学園大学 地域連携センター

〒981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1

✉ liaison@office.tbgu.ac.jp

TEL:022-233-3451

FAX:022-233-6298

お申し込みは
メール、
FAX、郵送で



からだと健康を守る

31
講座

1 足の機能からみた 転ばない身体づくり

ヒトの足部の構造と運動機能を学び、転ばない身体づくりの方法を伝授します。講義では民族による足の歴史的意義についてもふれながら、楽しく運動の大事さを学びたいと思います。

運動のしくみや効用に詳しい理学療法士

医療福祉学部

教授 藤澤 宏幸



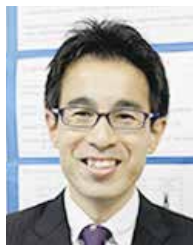
2 こどもの健康を 身体運動から支える

こどもの成長にとって「運動」は欠かせない要素の一つです。しかし、過度な運動は大きなケガにもつながりかねません。こどもの頃から運動過多や運動不足によるケガや病気を予防するために、身体のしくみと適切な運動方法を一緒に学んでいきましょう。

こどもの健康増進について研究する理学療法士

医療福祉学部

教授 鈴木 誠



3 アイフレイル対策で 健康寿命を伸ばしましょう

いつまでも自分らしく健康で過ごすためのフレイル予防、その一つにアイフレイル予防があります。「見える」を意識すると、介護予防につながり健康寿命を伸ばすことに役立ちます。アイフレイルチェックシートで見え方をチェックしてみましょう！

当たり前に見えることってすごい！
快適な視的生活を支援する視能訓練士

医療福祉学部

教授 小野 峰子



4 こどもの支援に生かす作業療法

発達障害を持つこどもは、感覚や運動面の未熟さから、文字が崩れる、箸が上手に使えない、縄跳びが出来ないなど様々な生活スキルの獲得に影響します。作業療法では、発達障害児の特性を考慮し、生活スキルの獲得や技能向上を目指して支援しています。その具体的内容について紹介します。

こどもの健やかな発達を支援する作業療法士



医療福祉学部 教授

本多 ふく代

5 日々の生活活動を健康づくりに活かすコツ！

「運動＝スポーツやジム通い」と思われがちですが、実は日常の中でのちょっとした動きや活動も、立派な“健康づくり”になります。買い物へ歩いて出かける、掃除をする、趣味に集中する、地域活動に参加する、家族と楽しい時間を過ごす…そんな日々の積み重ねが、心と体の健康を支えてくれるのです。この講座では、普段あまり意識しない「生活の中の活動」を振り返りながら、それらをどう健康づくりに活かしていけるかを考えていきます。自分らしい健康習慣を見つけるヒントを、ぜひ一緒に探してみませんか？

日常の作業をマニアックに追究する作業療法士



医療福祉学部 教授

高木 大輔

6

ロービジョンリハビリテーションを知っていますか

人間の情報の80%は、目から入ると言われています。人生を快適に過ごすために、見えることを守り、見えにくさで困っていることを支援するロービジョンリハビリテーションを紹介します。

ロービジョンリハビリテーションを通して
快適な視的生活を支援する視能訓練士

医療福祉学部

教授 小野 峰子



7

発達障害って何？

自閉症スペクトラム障害やAD/HDなど最近よく耳にする発達障害とはどんな障害なのか、そしてその対応のポイントをみていきます。

自閉症スペクトラム障害の
コミュニケーション障害を研究しています

医療福祉学部

教授 藤原 加奈江



8

難聴と補聴器

難聴は日常生活の質の低下につながり、放置すると認知機能が低下しやすくなることが知られています。聞こえの不調を感じたときにどう対処すればよいか、難聴と補聴器についてわかりやすくお話しします。

難聴の診断や補聴器の適合について
研究しています

医療福祉学部

教授 高卓 輝



9

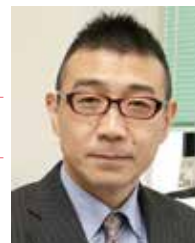
こどもを守るスポーツの環境

健全なスポーツを行うことはこどもたちの健やかな成長を促します。しかしスポーツを行うことでこどもたちには様々な圧力がかかっています。身体・精神・環境の3点から、健全なスポーツを支えるためのコツを運動生理学の専門家が説明します。

健全なスポーツを支えるコツを教えます

工学部

教授 古林 俊晃



10

心臓の手術はどのようにして行われているの？

「人工心肺装置」は患者様の心臓と肺の代わりを務める「人工臓器」です。臨床工学技士の視点から「人工心肺装置」や最新の「人工臓器」を紹介します。

「いのちのエンジニア」臨床工学技士

工学部

教授 工藤 剛実



11

呼吸器疾患よもやま話

肺炎、喘息、肺癌、肺結核等々、呼吸器疾患は多様で、全身疾患に伴なうものもあり、時に診断も困難ことがあります。それらの現況についてお話しします。

健やかな人生を送るために

工学部

教授 佐藤 秀隆



12

子どもの熱中症対策/ 子どもの発熱時の対応

看護の視点から子どもの身体の特徴と熱中症対策/発熱時の対応について紹介します。

子どもと家族が暮らしやすい社会を探究！

医療福祉学部

教授 大池 真樹



13

音楽と交流によるコミュニケーションで レジリエンスをアップ！

ストレスへのレジリエンス(回復力)が注目されています。音楽(歌を歌う)と看護をコラボしたコミュニケーションであなただけのレジリエンスを高めてみませんか。音楽リエゾン講師と看護職が、みなさんのレジリエンスアップをお手伝いします。

看護師と音楽リエゾン講師のコラボです

医療福祉学部

教授 作山 美智子



14 脚は“第2の心臓”

脚は“第2の心臓”と呼ばれることがあります。そもそも心臓は、身体中に血液を循環させますが、実は脚も運動することによって心臓と同じような役割を果たします。なお、この脚の作用が低くなると、むくみとして現れることがあります。本講座では、実際に体を動かしつつ、脚の役割とむくみの関係を知っていただき、生活の中に運動を取り入れるきっかけになればと思います。



医療福祉学部 准教授

小野部 純

リンパと微小循環の機能に詳しい理学療法士

15 ①歳を重ねても自分らしく ②緩和ケアって何？

①自分だったら、家族だったら最期をどう迎えたい、迎えさせてあげたいでしょうか。そのためにはどうしたら？日本における看取りの現状と照らし合わせ、一緒に考えたいと思います。最期をどう過ごすのか、死に向き合うことで生きることの意味を再確認する機会となることを願っています。

②医師から勧められた緩和ケア。それはがんの終末期という宣告？いえいえ、緩和ケアはがんと診断された時から並行して行うケアです。心身の苦痛をできる限り軽くして療養してほしい、それが医療者の願いです。緩和ケアについてわかりやすく説明します。



医療福祉学部 准教授

宮下 真子

①望ましい最期を迎えてほしい ②緩和ケア普及に努めています

16 子どもの権利条約、ご存じですか？

日本で1994年に批准した「子どもの権利条約」について、小児医療での視点をふまえお話しします。子どもたちに必要なことを改めて考えてみませんか？



小児看護に携わり〇十年

医療福祉学部

准教授 鈴木 祐子

17 「人工透析」って何？

もしかすると、身近に「人工透析」を行っている方がいませんか？「人工透析」ではどのようなことが行われているのか、原理や方法について解説します。



人工透析について説明します

工学部

准教授 佐々木 典子

18 健康長寿のためのヒント

～高齢期の運動を通じた、健康づくり・生きがいづくり～

高齢期の健康増進や生きがいづくりにむけた活動の中から、地域における介護予防の視点を用いた手軽で効果的な健康運動を紹介します。



現代社会学部 准教授

犬塚 剛



現代社会学部 准教授

森田 清美

健康運動科学の分野から介護予防を見据えるスペシャリスト

19 いい香りでストレス解消

香りには人それぞれに好みがあり、その人の印象や感覚、感情に影響を与えます。香りをうまく利用することで、自分だけではなく相手をリラックスさせることもできます。

快適な住環境をプランする研究者

工学部

准教授 二科 妃里



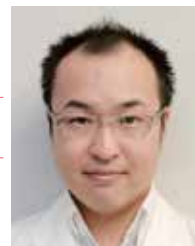
20 小さじ一杯から始める健康

健康な生活を保つには、特別な運動や高額なサプリメントは必要ありません。大切なのは小さじ一杯のような小さな習慣です。生活の中でのちょっとした工夫、ひと手間で作代謝の良い身体づくりを始めましょう!

身体の代謝機能に詳しい理学療法士

医療福祉学部

講師 高橋 一揮



21 教え方のコツ・教わり方のコツのあれこれ

運動を教える際、どんな声がけをしているのでしょうか?スポーツを教わる際、指導者にどんなことを求めているのでしょうか?ちょっとした心がけが、運動・動作の覚えやすさに影響します。紹介する「動作の教え方・教わり方のコツ」をもとに、より良い運動の習得方法を一緒に考えてみましょう!

動作の教え方・覚え方を研究する理学療法士



医療福祉学部 講師

鈴木 博人

22 こころとからだのバランスを!

普段の生活において、気にしているようで意外と目が行き届いていない「こころとからだのバランス」。豊富な臨床経験と研究実績による知見をもとに、「こころとからだのバランス」にまつわるお話を提供します。

臨床・研究・教育をつなぎ、地域へ還元!

医療福祉学部

講師 佐藤 大輔



23 人体は電気で動いている

人体の神経系や筋系では電気が情報の伝達と運動に重要な役割を果たしています。病気の治療に活用されている電気ショック(AED)について、原理や安全に使用する方法を解説します。

医療機器の安全確保を担う臨床工学技士

工学部

講師 高橋 るみ



24 『声の健康とは』 ～美しい声の保ち方講座～

私たちの声は、生まれた時からずっと同じではありません。年齢とともに変化する声をできるだけ良い状態で保つための方法をご存じでしょうか。発声のメカニズムをもとに分かりやすく解説します。

嚙声の音響分析、音声治療法について研究しています

医療福祉学部

講師 阿部 千佳



25 失語症について

脳卒中や頭部外傷にて、失語症というコミュニケーション障害が後遺症として残ることがあります。失語症について、そしてその対応の方法について学びます。

失語症について研究をしています

医療福祉学部

講師 小泉 智枝



26 正しい筋トレやストレッチで身体のコリをほぐしましょう！

肩こりや腰痛は良くならないとあきらめていませんか？実はその方法が間違っているかもしれません。筋肉を正しくトレーニングしたり伸ばすことで症状が改善することもあります。今日から自宅で行える運動をご紹介します！



医療福祉学部 講師

阿部 玄治

筋肉のしくみに詳しい理学療法士

27 できることから始めよう！糖尿病予防

身近な病気である「糖尿病」。進行する糖尿病はいずれ大切な臓器「腎臓」を蝕んでしまいます。生活の中で出来る工夫で予防し、健康的な身体を保ちましょう。糖尿病と腎臓、そして運動との関係についてお話しします。まずは、ちょっと多く動くところから始めてみませんか？



医療福祉学部 助教

釵明 佳代子

糖尿病からみなさんの腎臓を守りたい理学療法士

28 お口の健康保ってますか？

食えること、話すこと、色々な場面で口や歯は頑張っています。そして、口や歯は物凄い頑張り屋さんです。頑張り屋さんの口や歯を労わってますか？口や歯に生涯頑張ってもらうために口や歯の健康の保ち方をお伝えします！



生涯食へ続けるために口や歯の健康を守りたい看護師です

医療福祉学部

助教 千葉 桂子

29 乳幼児の救命救急処置と窒息の防止方法

保育施設などでの乳幼児の救命救急処置と窒息の防止方法を体験型でお伝えいたします。また、子どもの視野体験をしながら、誤飲誤嚥防止のための環境を一緒に考えてみましょう。



臨床での経験をもとにお伝えいたします

医療福祉学部

助教 秋本 和宏

30 見えにくさに気づくためのヒント ～緑内障と視野のはなし～

「見えているつもり」が落とし穴？視野と視力の違いを知り、緑内障の見え方や早期発見の重要性について、視能訓練士がわかりやすく解説します。



あなたの“見る”を守る、視能訓練士

医療福祉学部

助教 石川 奈津美

31 斜視・弱視とは？ 早期発見が大切な理由

斜視・弱視は、子どもの視力発達に影響を与える眼の疾患です。早期発見により、適切な治療や視能訓練を行うことで改善の可能性が高まります。本講座では、チェックポイントや予防策をわかりやすく解説します。



健やかな眼の発達をサポートする視能訓練士

医療福祉学部

助教 常盤 純子



20
講座

1 ヒートアイランド現象と 建物のエネルギー消費

国内では20世紀半ばごろから課題として認識されるようになったヒートアイランドには、建物のエネルギー消費が大きく関わっています。

建築設備・都市環境の省エネルギー研究者

工学部

教授 須藤 諭



2 高齢者対応集合住宅の 欧州と日本の現状

老後を考えると戸建て住宅では不安、福祉施設では味気ない…今その中間的な集合住宅の需要は高まっています。国内の事例のみならず、海外の例も含めて今後の暮らし方を再考します。

療養のための建築環境を研究しています

工学部

教授 山本 和恵



3 地域における福祉活動の考え方と方法 ー活動の円滑化のためにー

地域の中での活動がより楽しい活動になるために、グループワークの考え方や方法、技術について簡単に解説します。

実践から真理を追求する地域福祉のオーソリティ

現代社会学部

教授 豊田 正利



4 フレイル予防の 経済的側面からの評価

要介護に陥りやすい病態であるフレイルを予防することで医療・介護費用はどの程度抑制されるのか、自治体のフレイル予防の取り組み事例を通じて検証していきます。

老年学をベースとして
地域保健のあり方などを研究しています

経営法学部

教授 吉田 裕人



5 わが町再発見！ 仙台・水辺の郷土学講座

仙台的まちなかの水辺と地形を題材に、日頃気づきにくい地域の個性や生活史の痕跡、そして水環境の問題を考えます。地名の意味も考えます。一緒に、わが町再発見!!【講話形式&フィールドワーク形式】

都市の水辺環境の研究者

工学部

教授 八十川 淳



6 屋外拡声システムの高度化

防災情報を行政組織と住民のみなさんに伝える行政防災無線という仕組みが国土に広く設置されています。住民の立場からみると、スピーカーのタワーを思い浮かべる方も多いでしょう。東日本大震災では、半数の人が防災行政無線を通じて大津波の警報を知りましたが、20%ほどの人は良く聞き取れなかったことが知られています。この講座では、良く聞き取れなかった原因、そしてそれを解決するための研究開発についてお話しします。

東日本大震災が突きつけた情報通信技術の課題解決を目指しています



工学部 教授

鈴木 陽一

7 立体構造制作ワークショップ

①モンゴル移動住居『ゲル』を組立体験し、空間を味わいます。

【野外実習プログラム】

②身近な材料の割りばしと輪ゴムを使って、タワーやシェルターを作ります。

【屋内実習プログラム】



工学部 教授
八十川 淳



工学部 准教授
一條 佑介



工学部 講師
梅岡 恒治



工学部 助教
富山 正幸

立体や空間の『創造体験』をお手伝い！

8 楽しく交流・コミュニケーションのコツ

現代は人との付き合い方で悩んでいる方が多いと言われています。ちょっとしたコミュニケーションのコツを意識することで、人と楽しく交流することができます。

円滑な対人交流や役割を持つことで、楽しい生活を提案する作業療法士

医療福祉学部

教授 香山 明美



9 高齢者を見守るまちづくり

住民だからこそできる「見守り」の長所、短所を理解して、超高齢社会で活用する方法を考えましょう。

Life（人生・生活）にこだわる
社会福祉学・心理学の研究者

現代社会学部

教授 野崎 瑞樹



10 “リフォーム”で健康住宅

リフォームで環境改善、健康増進！住宅環境を改善する新しいリフォーム法を考えます。

健康・快適な室内環境を創造する研究者

工学部

教授 野崎 淳夫



11 音の感じ方を知る

普段から音を感じながら生活をしていると、音の感じ方については十分知っていると思われるでしょう。しかし、音の感じ方には意外な面が結構あります。音の感じ方を通じて普段の生活を振り返ってみてはいかがでしょうか。

音楽から騒音まで色々な音を研究する者です

工学部

教授 高根 昭一



12 子どもの発達と福祉 子どもと楽しく向き合おう

子どもの発育や発達過程の様子を正しく理解し、それぞれの年齢期に起きやすい問題とその予防について紹介します。また、子育て中の悩みや子どもとのコミュニケーションの取り方などについても考えていきます。

子どもの未来を第一に、様々な視点から鋭く切り込みます

現代社会学部

准教授 鑑 さやか



13 賢い消費者を目指す

消費者の権利と責任、製造物責任法（PL法）、クーリング・オフ制度、衝動買い、その誘発要因と対策など、自立した消費者を目指すための知識や巧みな企業のマーケティングの秘密などを説明します。

賢い消費生活を支援します！

経営法学部

准教授 鄭 舜玉



14 モバイル通信サービス市場の動向

モバイル通信技術の進展は著しく、通話からデータ通信まで、安くサービスが提供されるようになりました。本講義では、モバイル通信サービス市場の動向を紹介します。モバイル通信事業者を選ぶ際の参考にいただければと思います。

大学では経済学の科目を担当しています



経営法学部 准教授

久保田 茂裕

15 一日の始まりは準備体操

健やかに一日を活動するには、入念な準備が必要です。様々な体操が推奨されていますが、「ひとつひとつの体操に意味があるのか」「どのような体操を選択したらよいのか」、自分に合った準備体操を選んでみませんか!

神経の機能に詳しい理学療法士



医療福祉学部 准教授

村上 賢一

16 身近な環境騒音を探る

日常生活の中で発生する様々な環境騒音について、騒音発生メカニズムを交えながら解説します。

環境騒音を調査・解析する研究者

工学部

准教授 川村 広則



17 理想的な建築環境とは

本講座では、建築環境の大切さについて、健康・快適に過ごすための裏ワザを交えて紹介します。

建築物における安全・安心な環境を実現するための研究者

工学部

准教授 一條 佑介



18 認知症になっても「その人らしく」暮らす

超高齢化社会を迎え、認知症はもはや避けては通れない病気となりました。「認知症になったらおしまい、何も出来なくなる」と思っている方が多いのではないのでしょうか。認知症になっても、残された力を活かすことで、住み慣れた地域でその人らしい生活を送ることは可能です。また、認知症の方を介護する方も、正しい知識、適切な対応を知ること、地域からの孤立を防ぎ、生き生きと暮らすことが可能です。地域全体で認知症についての理解を深め、認知症になっても暮らしやすい、優しい街づくりを提案します。

その人の持っている力を最大限に活かす作業療法士



医療福祉学部 講師

高橋 由美

19 ウォーカブルから考える まちづくりと建築

歩きたくなる(ウォーカブル)まちづくりはまちの賑わいだけでなく、自身の健康にもつながっています。また、回遊性のある空間は、多様な暮らしの実現に繋がっています。事例紹介と共にお住いの暮らしについて一緒に考える場にしたいと考えています。

都市デザイン・建築設計の専門家

工学部

講師 梅岡 恒治



20 暮らしの相談会

住まいの困りごとをお聞きます。住宅に対して、抱えている問題を言語化することが、現状の改善に繋がります。新しい住まいを検討している方へは、建築家の探し方から対応します。一緒に暮らしを考えましょう。

あなたのお話を聞かせてください

工学部

助教 富山 正幸



教養を磨く 11 講座

1 楽しく学ぶ韓国語

最近、街の案内板にもハングル併記が多くみられるようになりました。2024年度日本と韓国の相互訪問者数は一千万人を遥かに超え、韓国文化に興味を持つ人も増えています。やさしい韓国語を学んで、文化の一端を覗いてみませんか。

韓国語を通して韓流を楽しむ、韓流の伝道師

経営法学部

教授 文 慶喆



2 地図で理解する中国の多様性

日本にとって近い国なのに、意外と知られていない中国の実状。その広大な国土に暮らす多様な民族や社会、日本との関係などについて解説します。

上海出身、日本在住30年。知日派の政治学者
専門は、日中関係、中国政治など

経営法学部

教授 王 元



3 現代社会に生きる 私たちの“生きにくさ”の正体

私たちが今生きている現代社会が“生きにくい”社会だと言われて久しいですが、どのように生きにくいのでしょうか。社会学をベースとして理論的に検討することはもちろん、日常生活の具体的な場面に即して“生きにくさ”の正体に迫ります。

私たちの社会と自我のよりよいあり方を、
自ら迷い悩みながら考え続けている社会学徒

現代社会学部

教授 山尾 貴則



4 山の暮らしと災害救助犬

日本の山村は少子高齢化が進み、限界集落としての生活を強いられると考えられています。しかしむしろ、都会の暮らしよりも豊かで、災害に強い側面もあります。我々が今、山村に学ぶべきこと、そして災害救助犬を活用してできることは何か、お話しします。

災害救助犬を育てる民俗学者

現代社会学部

教授 岡 恵介



5 言葉の意味を理解する しくみを考える

人は言葉の意味をどのように理解しているのでしょうか。このような疑問に取り組んだ脳科学・認知心理学研究を紹介しながら、言葉の意味を理解するしくみについて考えます。

意味理解の解明に取り組んでいます

医療福祉学部

教授 柴田 寛



6 仙台領の文化と諸相

ここでいう仙台とは藩政時代の仙台領と藩邸を構えた江戸・京都・大坂の三都の抱え地、そして領主伊達家の関連の伊達・梁川・会津・置賜・宇和島等を加えた地域を指し、その地域の歴史・文化・社会（風土・風俗）等について多角的に学習し検証しています。

従来の中央史観に捉われず、地域に根差した歴史の見方・考え方を示す研究者



地域連携センター
特任教授

渡邊 洋一

7 新・郷土学講座 身近な地名を解き原始風景を探る

足元の地名に残る原（プロト）日本語を読み解き、原始風景を川沿い、尾根沿いに探ります。大地の捉え方を再考します。ご近所の地名から垣間見える、遙か昔の意外な姿をご一緒に！ わが町を新発見!!
【講話&フィールドワーク形式】

地名と地形の研究者

工学部

教授 八十川 淳



8 異なる文化からみる 作業の形・作業の意味

日常生活の「食事」や「おしゃれする」などの作業は異なる文化（国）では、どのような形で表現され、どんな意味が含まれているのでしょうか。異なる文化を経験する作業療法士と一緒に、暮らしに満ちる「作業」を考え、いつもの日常生活を違う視点で検証しましょう。

日々の作業を楽しむ台湾出身の作業療法士

医療福祉学部

准教授 王 治文



9 日本は男女平等な社会？ ～憲法14条から考える～

憲法14条は「法の下での平等」を定めているけれど、実際の社会はどうでしょう？例えば、女性だけの再婚禁止期間はようやくなくなるけれど、夫婦別姓問題などは未だに残ったままです。社会をより良く変えていくために憲法は使えるのでしょうか？一緒に検証してみましょう。

比較憲法的視点から考える研究者

経営法学部

准教授 淡路 智典



10 日本語の発音を科学する

科学的なデータをもとに、皆さんが無意識に話している日本語がどのように発音されているかについて解説します。

子どもの発音の発達とその障害について研究しています

医療福祉学部

准教授 中村 哲也



11 脳の不思議をのぞく ～高次脳機能障害のお話～

ヒトの脳はたくさんの働きで私たちの生活を支えています。病気やケガにより脳が傷ついてしまうことで引き起こされる高次脳機能障害を通して、脳の不思議をのぞいてみましょう。

障害を抱えても自分らしく生きていく
お手伝いをする言語聴覚士

医療福祉学部

講師 八鍬 央子



12 データから捉える社会の姿

情報が溢れる現代社会において、社会の姿や社会問題を客観的に理解することは重要なスキルのひとつです。身の回りにある様々な問題の要因を探り、解決方法を模索するために有効な調査法とデータ分析の知識を身につけてみませんか。

調査とデータ分析から社会を診断します

現代社会学部

助教 田中 茜



先進科学を知る

13
講座

1 コンピュータに プログラムを理解させよう

言語は、あらゆるコミュニケーションの手段です。我々人間はプログラミング言語を使ってコンピュータに指示を与えるのですが、それはどのようにコンピュータに理解させ、実行させるのでしょうか。ツールとしてのコンパイラを易しく解説します。

コンピュータアーキテクチャの研究一筋

工学部

教授 沈 紅



2 原子の世界を コンピュータで覗いてみよう

物質の性質は原子ひとつひとつの振舞いによって決定されています。ミクロな原子のモデルから物質の性質を予測するコンピュータシミュレーションについて紹介します。

物理シミュレーションのエキスパート

工学部

教授 鈴木 伸夫



3 医療現場の安全 －医療機器編－

医療の安全管理というと、「医療は危険なの?」という疑問が生じます。最新医療機器の実際の安全管理はどのように行われているか、現代医療の実際について紹介します。

臨床工学技士の視点から現代医療を考えます

工学部

教授 相澤 康弘



4 磁気の医療応用 ～ハイパーサーミア～

癌あるいは脳腫瘍等の悪性腫瘍細胞に対する治療法の一つであるハイパーサーミア(温熱療法)について、磁気エネルギーを利用した方法に関して紹介します。併せて磁気の基礎知識から医療応用について概説します。

磁気応用技術の探求者



工学部 教授

家名田 敏昭

5 マルチメディアシステムの臨場感

臨場感という言葉はよく耳にします。これは迫真性などとともに、高次感性と呼ばれる評価指標の一つです。

この講座では、この臨場感を取り上げ、臨場感とは何か、一般の人々にはどう理解されているのかを紹介합니다。また、音響システムやマルチメディアシステムの臨場感は、どのような要因によって決まっているのかなどについてもお話しします。

人間の情報知覚の仕組みに根ざした高度なマルチメディアシステムを目指しています



工学部 教授

鈴木 陽一

6 超音波診断のはなし

医用超音波診断は人間ドックなど受診の機会が多い検査の1つです。基本的な装置である超音波断層診断装置を取り上げ、計測原理と装置の概要について解説します。

超音波工学の専門家

工学部

教授 浅井 仁



7 音を通じたバーチャルリアリティ

バーチャルリアリティ(VR)は、本質的に現実と同一の環境をユーザーの感覚を刺激することでつくりだす技術です。この中で音を通じた感覚、つまり聴覚におけるVR関連技術についてお話しします。

音のバーチャルリアリティをとことん探究したい

工学部

教授 高根 昭一



8 コンピュータネットワーク入門

インターネットは世界中をつなぐコンピュータネットワークですが、どのようにして遠く離れたコンピュータにもデータを届けることができるのでしょうか。その基本的な仕組みについて易しく解説します。

いつでもどこでも安全にデータをやりとりするには?を考えている情報ネットワークの研究者

工学部

教授 長田 俊明



9 身近なコンピュータ科学をひもとく

現在の情報化社会において、普段、私達が何気なく利用しているデジタルな道具とコンピュータ科学やICT(情報通信技術)との美妙<ビミョウ>な関係をひもといて解説します。

コンピュータと教育のチャレンジャー

工学部

准教授 神村 伸一



10 神経細胞機能研究のための顕微鏡ロボット

生物の神経細胞活動を高い時間分解能で蛍光計測し、光刺激をリアルタイム制御する統合ビジュアルサーボ顕微鏡、リアルタイムソフトウェアの開発を解説します。

顕微鏡ロボットの開発に一生懸命

工学部

准教授 費 仙鳳



11 最適化問題入門

最適化問題という見方をすることで、機械学習の舞台裏からパズルの難しさまで説明します。

最適化問題・探索問題を教育・研究

工学部

講師 中島 千尋



12 画像圧縮入門

カメラやスマートフォンで撮影した画像は基本的には圧縮されて保存されます。この講義では、デジタル画像の圧縮技術の基本的な仕組みについて解説します。

画像処理の技術で生活を豊かに

工学部

講師 戸田 英治



13 すごい人工臓器

どこまでできる?人工臓器
人間の臓器は様々な機能がありますが、何らかの原因でその機能を失ったときには、人工の臓器を用いて機械的に補助します。この人工臓器の世界を覗いてみましょう。

「いのちのエンジニア」臨床工学技士

工学部

助教 深谷 碧



東北文化学園大学 市民学習講座申込書

申 込 年 月 日		202 年 月 日 (曜日)			
団 体 名					
代 表 者 (役職:)		ふりがな		住 所	〒 -
		氏 名			
連 絡 先 ※今後の打合せを 担当される方		ふりがな		住 所	〒 -
		氏 名			
		電 話		FAX	
				E-Mail	
希望する講座名					
講 師 名					
日 時	第一希望	202 年 月 日 (曜日) 午前 ・ 午後 時 分 ~ 午前 ・ 午後 時 分			
	第二希望	202 年 月 日 (曜日) 午前 ・ 午後 時 分 ~ 午前 ・ 午後 時 分			
会場で準備できる 機材を連絡願います (☑記入)		☐ ノートパソコン ☐ プロジェクター(ケーブル含) ☐ HDMIケーブル ☐ 延長コード ☐ スクリーン ☐ マイク類 ☐ レーザーポインター			
実施予定会場	会 場 名			電 話	
	住 所				
参加予定人数		人		年齢層	歳 ~ 歳

必要事項をご記入のうえ、E-mail、郵送またはFAXでお申し込みください
 申込書到着後、希望する担当講師のスケジュールを調整し、対応の可否について連絡いたします

◎お申込み、お問合せは

〒981-8551 仙台市青葉区国見 6-45-1 東北文化学園大学 地域連携センター	TEL 022-233-3451 FAX 022-233-6298
---	--------------------------------------

*個人情報の利用について

住所、氏名、電話番号、FAX番号等の個人情報は、市民学習講座の申し込み内容の確認や、新しい講座のお知らせで利用させていただく以外には使用いたしません。

この用紙は大学のホームページからもダウンロードできます。

ワードファイル：http://923.tbgu.ac.jp/file/facility/comm/shimin_01.doc

PDF ファイル：http://923.tbgu.ac.jp/file/facility/comm/shimin_01.pdf

お問い合わせ・お申し込み

東北文化学園大学 地域連携センター

〒981-8551 仙台市青葉区国見6丁目45-1

メール: liaison@office.tbgu.ac.jp

TEL:022-233-3451 FAX:022-233-6298



このパンフレットは環境に配慮した
「水なし印刷」により印刷しております。



環境にやさしい「植物油インキ」
[VEGETABLE OIL INK]で
印刷しております。

講師の寸評は編集部作です
発行：令和7年7月